

# トランプよ、誰ひとり法の原則を超越している者はいない

…あなたも、ネオコンも、シオニストも！

【訳者注】 State of the Nation の筆者が特別の悲痛な思いで書いているこの文章を、訳者も同じような思いで訳した。SOTN は、トランプは完全に我々を裏切ったと判断している。トランプを信頼し期待した人々にとっては、あまりにも思いがけないことなので、シリア攻撃を中心とする最近の彼の一連の言動を、どう解釈すべきか戸惑った人々が多かったと思われる。私自身もトランプの善意の策謀ではないかと考えてみた。しかし、SOTN ほどの頭の下がる愛国者で、かつアメリカの悪の構造を知り尽くした人はいないと考えられ、しかもこれほどトランプに期待した人が、このように考えるのであれば、私も残念だが彼に従わざるをえない。SOTN は、トランプをジョージ・ワシントン（英からの独立指導者）に見立て、第 2 次アメリカ革命（グローバリストからの独立）をリードする将軍になぞらえた。<http://www.dcsociety.org/2012/info2012/161130.pdf> 彼に寄せた期待が大きかっただけに、断腸の思いでこの短い記事は書かれている。おそらく世界が同じ思いであろう。この後にも、続編が 4 点ばかり出ているので、追っていくつか訳そうと考えている。

SOTN (State of the Nation)

April 12, 2017

ブッシュの戦争の売りつけと、オバマの無法の 16 年間の後で、“我々人民”には、また一人の戦争犯罪人に対する寛容さはない。

アメリカ人民が、一人の選ばれたばかりのアメリカ大統領から、これほどの深くかつ露骨な裏切りを受けたことはない。

たった一つの大統領の行動が、支持者層の核心を、あっという間に確実に見捨て、逆に見捨てられるということが、これほど急激に起こったことはなかった。

## 法の原則

アメリカのシリアに対するミサイル攻撃が、あらゆるトランプ党にとってひどく腹立たしいのは、トランプ大統領候補の最も重要な公約が、アメリカにも多く覆されたからである。

これらの中で最も重要なのは、アメリカのみならず世界全体を通じて行われる、**法の原則の復活**であった。

このたった一度のなまの軍事力の行使によって、トランプ政権は、“力は正義なり”という弁護できない主張を見せつけた。すなわち、アメリカが自ら任じた世界の警察である間は、ジャングルの掟が通るということである。

## MAGA 対 MAAA

この同じ、間違っ使われたミサイル攻撃はまた、**Make America Great Again (MAGA)** の約束をも覆してしまった。それどころか、トランプ大統領の、挑発によらない赤裸々な軍事攻撃は、**Make America Ashamed Again** (アメリカを再び恥ずかしいものにする) ことに貢献した。

教えてほしい——どうして、全面的に破壊され、なおテロリストや傭兵に踏みにじられている国を不法に爆撃することが、“アメリカを再び偉大にする”ことができるのか？

就任して3か月にもならないのに、もうこのアメリカ大統領は、**MAGA** スローガンは、冷笑的な選挙戦術の見事な例だったことを確認した。

## MAGA = 法の原則

確かに大統領は、**MAGA** のための唯一の道は、国内・海外ともに法のルールを順守することであると知っている。この等式は、その法がフェアで正当なものであるかぎり、常に機能してきた。

したがって、なしうる最も重要な仕事は、法規範、特に古きよき時代のアメリカのそれを、再確立することである。すべてのアメリカ人のための公平な土台がなければ、無政府状態が支配するだけである。8年にわたるオバマの、ルール作りと法破りがそれを証明した。その前の8年間のブッシュの、海外での戦争売りつけと戦争営利も同様であった。

もしトランプ会社が、シリアで“国家建設”をするつもりなら、混乱だけが後に残るだろう。災害資本主義は決して秩序を取り戻したことはない。その逆である。ここから言えることは、もう一つ米軍の攻撃が行われるかもしれないという最近の宣言は、国家の法の腐食に貢献するだけだということである。

## 結論

トランプのシリアへのミサイル攻撃は、かつてアメリカ大統領の就任 100 日以内に犯された最大の失敗として歴史に語り継がれるであろう。

この国家が目撃したのは、一つのきわめて深刻な過ちのゆえに起こった、一人のリーダーに対する信頼の最大の喪失であった。この息を奪うような支持の喪失は、自然に起こったことでもあり、驚愕的な出来事でもあった。あらゆる人々が、すべてが変わった、取り返しもなく変わった、と瞬間的に知った。

なぜ、トランプ大統領はそんなことをしたのだろうかという、きわめて真剣な問題がいま残された。なぜ彼は、アメリカの歴史でも最も粗暴な選挙運動の期間中に蓄えられた、政治的資本の莫大な貯えを、向こう見ずに浪費したのであろうか？ ——以上